【第二章】 沼田小早川氏代々の居城 高山城

高山城は、鎌倉時代初期1206年（建永元）遠平の孫小早川・4代当主・茂平が築城。

高山城は、谷を挟んで東西に延びる二つの尾根上に築かれている。

谷の北側には、本丸があり、本丸を中心に北の丸、扇の丸など八つの郭が直線上に並ぶ連郭式縄張。各郭は石垣や土塁、堀切などで防備を固めていた。

谷の南側には、太鼓丸、千畳敷など五つの郭が直線状に並ぶ連郭式縄張。

この北と南の郭群の配置は谷間に敵を誘い込んで南北の崖上から攻撃する狙い（戦法；搦め手）があったと見られる。

＊高山城の立地条件は、東部から南部を通る山陽道、北西部から南部にかけて流れる沼田川の交点付近、すなわち水陸交通の要路に求められたといえる。

＊高山城は、山頂部から北東部山麓にかけて、真良郷、南部に沼田郷・梨羽郷、西側には沼田川、北部から北西部に舟木郷を眺望でき荘内を掌握する絶好の地であった。

高山城本丸跡

本丸跡周辺部の石垣①

本丸跡周辺部の石垣②

高山城・参考記	
家紋	左三つ巴
別名；（妻高山城、古高山城）	
①城郭構造	山城
②天守構造	建造されず
③築城主	小早川茂平
④築城年	1206年 建永元年
⑤遺構	石垣、土塁 堀切、井戸、他
⑥標高	190.2m
⑦城山の規模	
＊頂上	東西；約450m 南北；約350m
＊城域	約40.9万㎡
全国・五指に入る規模	
⑧廃城年	1552年 天文21年

【第一章】沼田小早川氏誕生と高山城

① 小早川氏の祖・土肥実平・遠平父子

土肥実平と妻の像　＊JR湯河原駅前

実平は、現在の湯河原町を本拠としていた武将。源頼朝の元で、平家討伐に功績を挙げ、吉備三国（備前・備中・備後）の惣追捕使（守護）に任ぜられた。実平の長男・遠平は、土肥郷北部の地名・早川に拠って小早川氏を称したと伝わる。

遠平は、源頼朝の娘を妻にしたが早世。妻・天窓妙仏尼を弔うのに、棲真寺（三原市大和町平坂）を父の実平と共に創建した。

② 高山城の年表

1185年（文治元）	遠平、安芸国沼田荘の地頭に任命される。
1206年（建永元）	遠平の孫・小早川・4代当主・茂平高山城を築城する
1221年（承久3）	茂平、承久の乱の軍功で、安芸国の都宇荘と竹原荘の地頭に任命される
1338年（暦応元）	小早川氏・庶子家反乱。一時高山城は占拠され、その攻防に手間取った
1397年（応永4）	小早川・9代当主・春平、佛通寺を創建する
1467年（応仁元）	応仁の乱、小早川・11代当主・熙平東軍に参加し西軍と戦う
1473年（文明5）	文明の乱、小早川・12代当主・敬平上洛して西軍と戦う
1474年（文明6）	竹原小早川・9代当主・弘景らが高山城を攻撃。敬平、帰国して応戦した
1544年（天文13）	小早川・16代当主・繁平、出雲の国尼子氏と高山城下で戦い、勝利する
1552年（天文21）	新高山城築城。高山城廃城。小早川・17代当主・隆景、高山城から新高山城に城替えした

名城の誉れ高い・国指定史跡

歴代城主の統治力

高山城 物語

沼田小早川氏代々の居城、高山城は小早川４代当主・茂平が築いた城で中世３４５年間、この地方の拠点であった。また、中世という時代は鎌倉・南北朝・室町の戦国時代を通じ、武士達が今までの荘園主や国の権力者や貴族に変わり各地に群雄割拠し、勢力拡大を図り、あるいは天下統一を目指して争っていた。

この時代、高山城下においても合戦が行われてその攻防は激しかったと記されている。

このような時代を、沼田小早川氏の歴代当主達は、いかなる統治力を発揮したのだろうか。

文献・資料を参考に綴ってみた。

〔参考文献一覧〕

①郷土史家；池田卓三氏
郷土史点描

②小早川氏城跡保存整備連絡協議会(2005年)版
保存整備基本構想・基本計画策定報告書

③広島県文化財ニュース　139号平成5年10月発行
小早川氏の歴史について　橋本敬一氏執筆

④その他・インターネット搭載記事他

三原市　本郷町観光協会
平成28年1月発行

ガイド案内連絡先
三原市本郷南5丁目26-11
TEL 0848-86-5717
9時～12時・平日

【第三章】沼田小早川氏・歴代城主の統治力

平安後期～鎌倉初期～鎌倉後期～南北朝初期

初代；実平　さねひら

土肥実平は、源平合戦に於いて、頼朝側近として武勲を挙げ1184年（元暦元）備前・備中・備後の惣追捕使となって備後国・有福荘（現・府中上下町）を拠点としたことから沼田小早川氏の永い長い物語が始まる。

2代；遠平　とうひら

沼田荘の地頭になった遠平は郡鶴城（現在・三原市長谷町・鶴山）に拠りて栄えたと伝わる。遠平は、嫡男・維平には相模国で土肥家とその所領を相続させ、平賀義信の子・景平を養子に迎えて、沼田小早川・

3代；景平　かげひら

景平（遠平の養子）は、1206年（建永元）に地頭職を長男・茂平には沼田荘、次男・季平には沼田新荘を譲り地盤拡大を図った。季平は椋梨（大和町椋梨）に居を構えて、椋梨氏を名乗った。

4代；茂平　しげひら

①高山城築城　1206年（建永元）
茂平は、高山城を築城し、沼田小早川氏の本拠地を構えた。
②茂平の分家政策
一族を周辺一帯に分家として配し小早川総領家の勢力拡大と安定を扶植していった。
〔分家系図〕
＊長男・経平＝舟木郷
＊四男・政景＝竹原小早川
＊長女・犬女（浄蓮）＝梨羽郷
＊妻　・尼浄仏＝沼田荘内の長良・他
③湿地帯・塩入荒野の開拓
沼田川下流域の塩入荒野を開拓して、農地化を推進して豊かな田畑を広げ、更なる勢力を拡大した。

5代；雅平　まさひら

雅平に関わる資料は乏しいが、父・茂平の政策を踏襲したものと推測できる。但し、沼田川・対岸の新高山を副墨（砦）として整備した。

6代；朝平　ともひら

朝平は、鎌倉幕府の命令に従い、瀬戸内海の海賊衆取締りに積極的に貢献したが、孫の直平の行状から一時期建武政権に所領を没収され窮地に立たされたが、早くから足利尊氏の下で戦っていた分家・竹原小早川・景宗の取成しで赦免され、南北朝時代以降、足利氏に仕えた。

＊時代背景

＊本家と分家の戦い
茂平の分家政策で弱小の分家は本家の強い支配に対立していた。鎌倉幕府が倒れ、世の中が混乱してくると分家の自立の絶好の機会とみて決起し、竹原小早川・頼平らが一時高山城を占拠・立て籠もった。
＊この攻防戦にはかなり広い地域から動員されており、小早川一族にも動揺をもたらした。

竹原小早川家の祖、政景は、子孫ともども竹原小早川家として独自性を持つようになり、庶子家を分出せずに一族を被官化しながら勢力を拡大し、惣領家の沼田家と対立する大勢力に発展していった。

南北朝中期～室町初期～室町中期

7代；宣平　のぶひら

朝平の子・宣平は、1355～1356年（文和4～5）南朝方・山名時氏の連合軍から高山城が攻撃を受けたが、竹原小早川の救援出動でのりきった。
惣領家の弱体期となる。

8代；貞平　さだひら

宣平の子・貞平は、父同様、一族の弱体期を継承したが、瀬戸内水軍の取組に努力している。

9代；春平　はるひら

貞平の子・春平は、足利将軍家への接近を図り、本家惣領権限の強化及び小早川一族の結束を目指した。
高僧・愚中周久を迎え、佛通寺を創建した。
この時、一族や沼田の市の商人らの協力を得ている。

6代・朝平の後、宣平・貞平・春平の3代の間で、芸予諸島に進出し、小早川水軍の基礎を築いている。

10代；則平　のりひら

則平は、父・春平が建立した佛通寺を、ほぼ完成させている。
＊則平の日朝貿易
則平は、1418年（応永25）から1428年（正長元）の間に、17回も朝鮮の貿易を行なっている。その後も、長男持平が引継いで7回行っている。外港は瀬戸田であった。
則平は、有力な地頭となり、時の将軍奉公衆となり、足利将軍に近侍した。
この頃が、歴代の高山城主としては一番繁栄した時期だったようだ。

11代；熙平　ひろひら

＊家督相続で波乱
熙平は父・則平の次男として生まれたが、当主・長兄持平との家督争いが起こり持平から奪い取った。
その後、父・則平が死亡すると、将軍家が推す、竹原小早川氏の間で家督をめぐる抗争が続いたが 将軍足利義教の急死で、そのまま11代目を継承した。
＊応仁の乱勃発
1467年（応仁元）応仁の乱が始まり、東軍方として戦っている。

12代；敬平　たかひら

応仁の乱の戦の最中、父・熙平が死去したため12代当主を継いで、上洛して東軍の一員として戦った。

＊竹原小早川氏との合戦
東軍についた沼田家と西軍についた竹原家の対立は、竹原小早川弘景の二度にわたる高山城攻防戦になった。二度目の1474年（文明6）には落城寸前となったため、敬平は一時帰国し、和平工作をおこな

＊時代背景

＊戦国時代を迎える
戦国時代に入ると、芸備地方は山陰の尼子氏と、山口の大内氏の二大勢力の抗争の場となった。将軍の権威は衰え、小早川氏も中央との結び付きを失ったが、13代扶平の頃にはまだ先代の余勢もあって、三原地方に勢力をのばした。

室町中期～室町後期～安土桃山後期

13代；扶平　すけひら

敬平の子・扶平は、1504年（永世元）には、備後三原の代官職を与えられたが、将軍家や分家・竹原小早川弘平らとの事態切迫していく

14代；興平　おきひら

扶平の子・興平は、父の死後、3才で当主となったが、それまで対立していた竹原家とも和解が進み当主弘平を興平の後見人に迎えるなどして危機を乗り切ったが、22才の若さで死亡した。

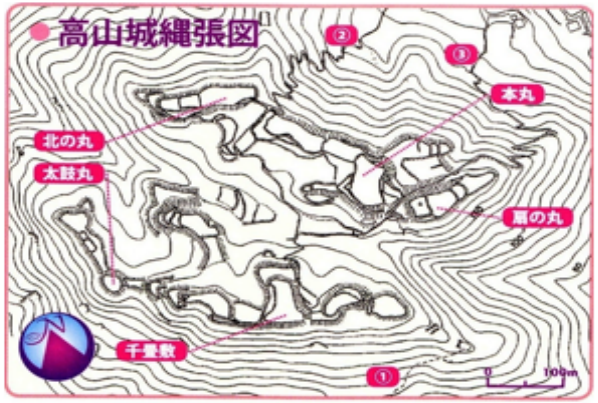
15代；正平　まさひら

興平の子・正平は、父の死後、3才で当主となったが、大内義隆軍によって高山城を占領され、城番の監視下に置かれることになった。
1542年（天文11）大内義隆が出雲遠征を開始すると、（月山富田城の戦）その戦に従軍した時1543年（天文12）21才で戦死した。

16代；繁平　しげひら

正平の子・繁平は、父の死後、2才で当主となった。
1543年（天文12）尼子勢による高山城攻撃には、一族は幼少の繁平を擁してこれを撃退した。しかし、1550年（天文19）大内氏により繁平は城の外におかれることになった。この時、大内、毛利の意向に反対する家臣の・田坂全慶ら、多くの家臣が抹殺された。

17代；隆景　たかかげ

＊沼田・竹原両家の統合
毛利元就の三男・隆景（竹原小早川当主）は、1550年（天文19）繁平の妹、（問田大方）と結婚して沼田小早川氏・17代当主となる。翌年・1551年高山城に入城し、その翌年には、副墨の新高山城を改修して移り、生涯45年間の隆景一代の居城となった。
隆景は、1567年（永禄10）前進基地として三原城築城。
＊隆景は、小早川一族や諸島の水軍を率いて毛利一族の繁栄のために戦った。
名将の誉れ高い・小早川隆景公は、1597年（慶長2）65歳の生涯を終えた。

南北夫々に郭が直線状に並ぶ、連郭式縄張